

協議を通して見いだした改善策

視点1 仲間に対する肯定的な言葉掛けを進んで行う活動を活性化するために（すすんで）

- 肯定的な言葉掛けがたくさん増えるよう、子供の言葉を取り上げ価値付けしていくことで、否定的な言葉掛けを減らしていく。
- 子供の役割を明確にし、集中して練習するとよい。子供それぞれが役割をもつと、自己肯定感も上がり、ゲームもスムーズに流れる。
- 単元の前半で話し合いの仕方を身に付けられるようにして、後半の授業では子供自身で話し合いを進められるとよい。そうすることで、チームでの話し合いや練習の時間を長く確保できる。
- 感覚づくりの運動時に、もっとチーム内での声掛けを意識させる。

視点2 きょうだいチームの言葉掛けをチーム内の動きに生かしたゲームを行う活動を活性化するために（みんなで）

- 振り返りは、教師だけでなく子供にも発言させる。
- 作戦がうまく実行できているかどうかについての教師の言葉掛けを増やす。
- セルフジャッジではなく、子供に審判をさせることで、ゲームを見る視点が定まる。
- チームと個人で課題のずれが生じないように、個人の課題をチーム内で共有するとよい。
- 勝利するためにはどうすればよいか、子供に問いかけ、子供と一緒にルールを作っていくとよい。

視点3 自分やチームの高まりを実感したり、運動の特性を味わったりする活動を活性化するために（たのしんで）

- どこを守っていても楽しさとやりがいを感じられるような言葉掛けをし、楽しさの幅を広げていく。
- コートの手前も使えるようなルールの工夫を取り入れる。（サーブは後ろの人に投げ入れる等）
- アンダーサーブを取り入れるなど、技能面の高い子供の引き上げもできるよう、ルールを選択できるようにする。
- 子供の実態や、子供に味わわせたい特性に合わせて、ボールやルールを採択する。

高学年分科会の授業づくりの意図を踏まえて、みんなで考えた「研究主題に迫るよりよい授業」のための「改善案」です。この中から、取捨選択して、今回の授業を改善していきます。